第1回協同組合クイズ クイズと回答 (2025.4.1～2025.5.31)

Q1. 茨城県は全国有数の農業が盛んな県であり、農業産出額は2017年から2023年の7年連続で全国第3位となっている (出題：茨城県農業協同組合中央会)

答え：○

解説：茨城県は米、野菜、畜産、果物、花など多様な農産物を幅広く作ることができます。また、全国1位(令和4年)の産出額を誇る品目が14品目と、たくさんあるのも特徴です。

根拠URL：

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noseisaku/senryaku/5sonota/sanshutsugaku.html>

Q2. 茨城県で「県のさかな」に選定されているのは「アンコウ」である (出題：茨城沿海地区漁業協同組合)

答え：×

解説：茨城の美しい海や川と水産業への理解を深めることを目的に、「県のさかな選定委員会」が設置され、「旬のさかな」の候補を選定し、一般公募を行いました。最も応募が多く、本県沿岸の重要資源であること等から、「ヒラメ」が「県のさかな」として1995年6月1日に決定され、あわせてシンボルマークも全国の多数の応募の中から選ばれました。

根拠URL：

<https://www.pref.ibaraki.jp/bugai/koho/kenmin/profile/symbol.html>

Q3. まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を「食品ロス」といいますが、各家庭から排出される家庭系ごみ、飲食店などから排出される事業系ごみ、合わせて日本で1年間に捨てられる食品の量は令和4年度推計値で100万tである (出題：いばらきコープ生活協同組合)

答え：×

解説：令和4年度の食品ロスの発生量は約472万t(農林水産省令和4年度推計値)です。一方で、毎日食に困っている人がいます。こうした中で広がっているのが「フードドライブ」。もったいないをありがとうにつなげる取り組みで、いばらきコープの全店舗に回収用ボックス(きずなBOXなど)を設置し、フードバンク茨城(日立店は日立市社会福祉協議会)の取り組みに協力しています。

根拠URL：

<https://sustainability.coopdeli.coop/sustainability/2023/10/ibaraki-foodloss-reduction.html>
https://www.env.go.jp/press/press_03332.html

Q 4. 森林組合では様々な事業を通じて、SDG s の達成を目指していますが、その中で「花粉の少ない少花粉の苗(スギ・ヒノキ)等への植替え」は、SDG s の取組みに該当する(出題：茨城県森林組合連合会)

答え：○

解説：目標 3 (すべての人に健康と福祉を) 健康な環境を提供することで、アレルギーや呼吸器疾患のリスクを減少させることができます。目標 11 (住み続けられるまちづくりを) 都市や人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にするために、緑地の保全と拡大が求められます。目標 12 (つくる責任、つかう責任) 持続可能な消費と生産のパターンを確保するために、環境に優しい植替え方法を採用することが重要です。目標 13 (気候変動に具体的な対策を) 植替えによって森林の健康を保ち、気候変動の緩和に寄与します。目標 15 (陸の豊かさを守ろう) 森林の持続可能な管理や生物多様性の保護に貢献します。

Q 5. 環境保全型の米作りを行う田んぼでは、微生物も含めたあらゆる生きものが調和し、豊かな生態系が生み出されている (出題：生活協同組合パルシステム茨城 栃木)

答え：○

解説：自然や生きものにできるだけ負担をかけない、未来につながる農業を目指し、土づくりには有機質肥料や堆肥を、土壌の殺菌には太陽熱を、害虫対策には天敵を増やす環境づくりを行っています。化学合成農薬や化学肥料に頼らない農法を実践する産直産地では、さまざまないのちが共存しています。

解説URL：<https://www.pal-system.co.jp/sustainability/environment/biodiversity/?via=j-sustainability-top>